

3) レクリエーション解析

(1)市民のレクリエーション活動の場

- ・市域には、鎌倉市民のレクリエーション活動の場となる都市公園、児童遊園、青少年広場等が整備されている。
- ・このうち、中心的役割を担う都市公園は175カ所、55.1haが整備されており、次のような特色が見られる。

- ・市街化区域内の公園はそのほとんどが街区公園であり、近隣公園は未整備の状況にある。
- ・街区公園のほとんどは児童の利用に供する公園であり、また、その約7割は1,000㎡未満の小規模公園である。
- ・地域によって街区公園の配置に濃淡が見られる。
- ・街区公園以外では、丘陵地や海岸線に自然とのふれあいが楽しめる公園（散在ガ池森林公園、源氏山公園、鎌倉海浜公園）が整備されているほか、鎌倉中央公園の整備を行っている。
- ・スポーツ施設を備えた公園として、笛田公園が整備されている。
- ・都市公園のうち、生活空間の身近な公園である街区公園については、地域住民によって組織された公園愛護会による維持管理がなされており、平成7年3月現在では92の街区公園でこうした管理が行われている。

- ・都市公園以外の施設として、体育館（3カ所）武道館（1カ所）、テニスコート（1カ所）のスポーツ施設が整備されているほか、玉縄地域には県のフラワーセンターが整備されている。
- ・また、市街地内には、街区公園以外にも条例・要綱に基づく児童遊園や青少年広場等の施設が整備されており、部分的に街区公園の役割を補完している。
- ・このほか、丘陵地や海岸線沿いには、レクリエーションルートとなるハイキングコースが設けられている。

表1-9 都市公園等の整備状況

(平成7年度)

種別	整備数	整備面積
街区公園	165	18.0 ha
地区公園	2	11.4
総合公園	1	6.6
風致公園	1	12.9
緑地	6	6.2
都市公園計	175	55.1
児童遊園	19	1.9
青少年広場	10	3.2
子どもの遊び場	9	0.5
子どもの広場	5	0.9
子ども自然広場	1	2.0
その他	2	0.3
児童遊園等計	46	8.8
合計	221	63.9

表1-10 公共スポーツ施設の整備状況

種別	整備数	都市公園内・外
プール	1	内
テニスコート	2	内1、外1
体育館	3	外
武道館	1	外
野球場	1	内
広場	1	内

鎌倉市スポーツ施設整備プラン  
平成7年2月 鎌倉市教育委員会

図1-19 地域毎の街区公園等の整備状況





図1-20 市民のレクリエーション活動の場となる施設緑地の配置状況

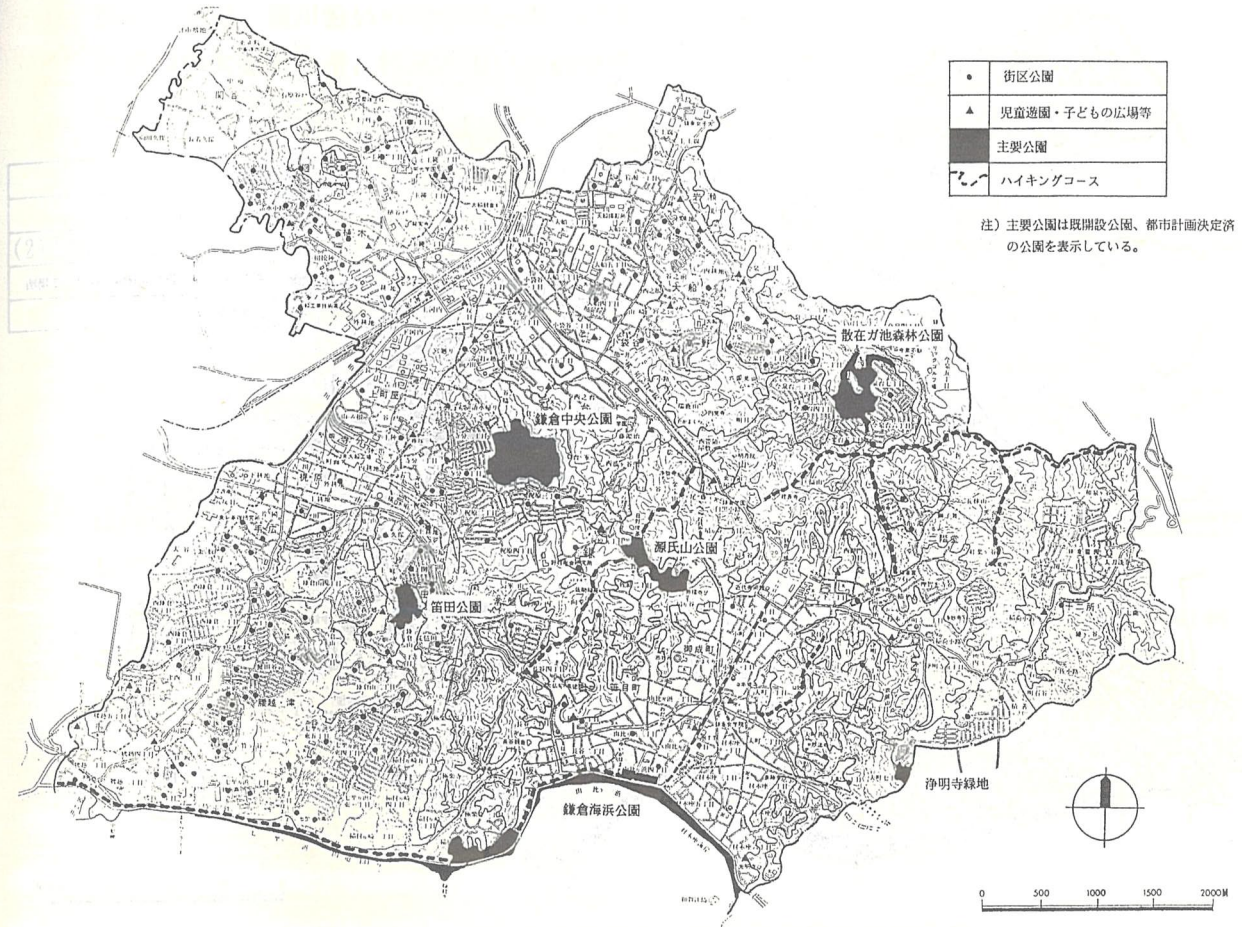


表1-11 来訪者の主な訪問先 (平成4年)

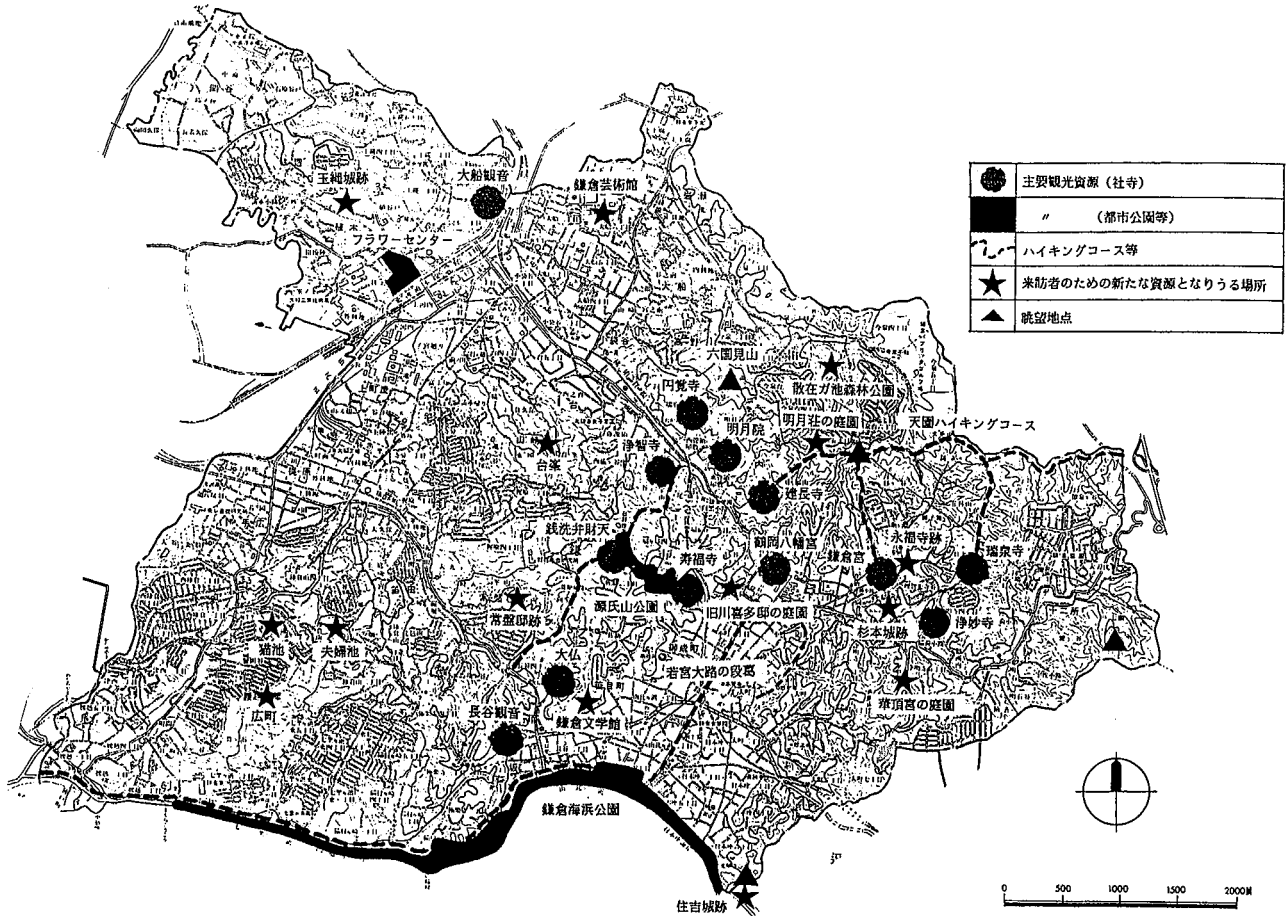
(2) 来訪者の観光・レクリエーション活動の場

- ・鎌倉市は、国際的な歴史文化遺産や海浜等の広域的なレクリエーション資源をもつ観光都市であり、年間2,300万人(平成4年)の人々が訪れている。
- ・こうした来訪者の主な訪問先は、古都鎌倉を代表する鶴岡八幡宮、大仏、建長寺等の社寺や鎌倉海岸などに集中しているが、こうした資源以外にも市内には眺望地、史跡、庭園、池等の観光レクリエーション活動に適した様々な資源、施設を内包している。
- ・来訪者の活動空間であるハイキングコースは、一部に歩行しづらい区間やコースが不明な区間が見られる。

訪問先	利用者数
1 鶴岡八幡宮	1,309万人
2 大仏	113
3 鎌倉海岸	68
4 建長寺	22
5 長谷観音	22
6 銭洗弁財天	112
7 円覚寺	177
8 フラワーセンター	86
9 天園ハイキングコース	11
10 瑞泉寺	147
11 鎌倉宮	30
12 大船観音	34

平成5年版 鎌倉の統計

図1-21 来訪者のレクリエーション活動の場となる資源・施設の分布状況



4) 防災解析

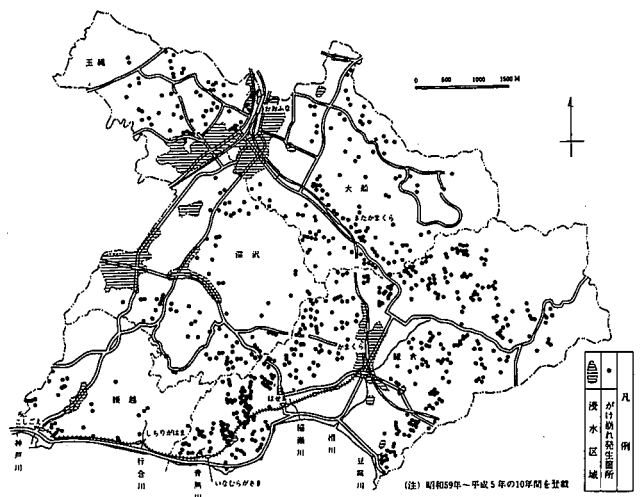
(1) 崖崩れ等の自然災害

鎌倉市は、丘陵地の中に谷戸が複雑に入りくむ起伏に富んだ地形構造をもつことや、丘陵地の多く（造成地を除く）がシルト岩と呼ばれる風化しやすい地質であることから、鎌倉地域を中心として崖崩れ等の発生の危険性をもつ場所が数多く分布している。

過去の災害発生状況においても、鎌倉地域の市街地背後の丘陵地を中心に、数多くの崖崩れが発生している。

こうした危険性をもつ斜面緑地に対しては崩壊防止のための工事が進められているが、未着手の場所も多く残されている。

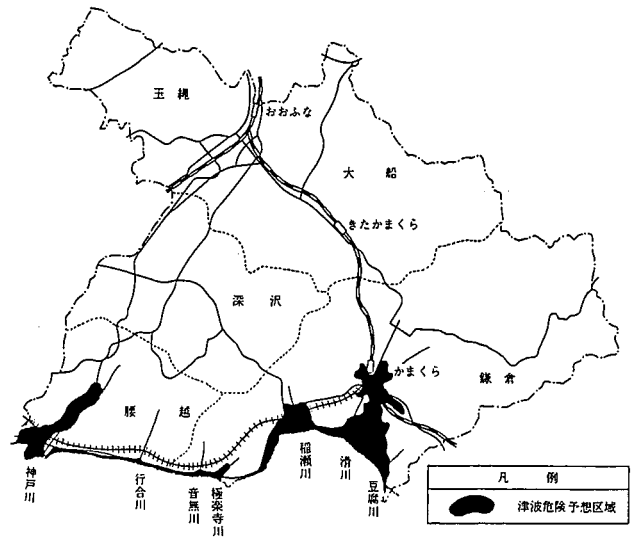
図1-22 過去の災害発生状況



鎌倉市地域防災計画

- ・洪水・浸水等の水害発生の危険性がある場所としては、滑川沿いの鎌倉駅一帯、柏尾川沿いの大船駅一帯、梶原川沿いの梶原地区一帯の3地区が挙げられる。

図1-23 津波危険予想区域



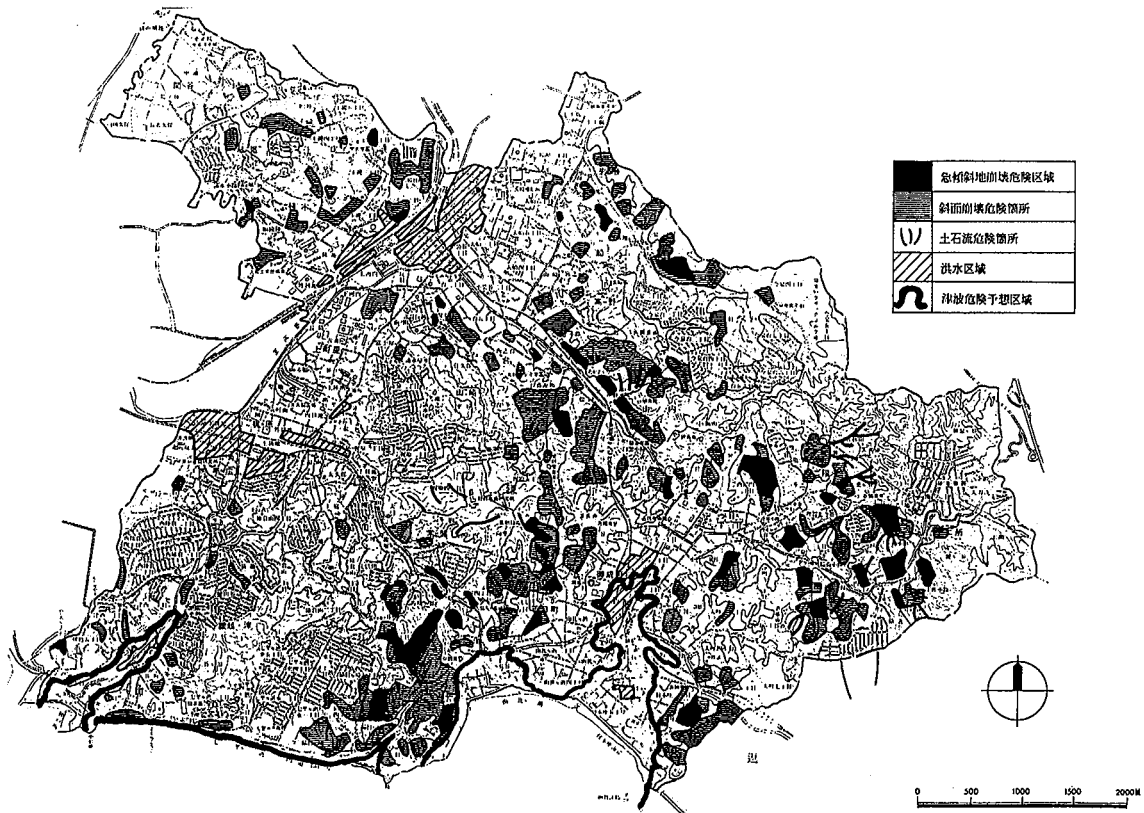
鎌倉市地域防災計画

(2)地震に伴う津波災害

- ・鎌倉市は、東海地震や南関東直下型地震発生時において津波の発生が懸念されており、関東大震災と同規模の津波が発生した場合には、鎌倉駅から海岸線にかけての滑川沿い、江ノ電以南の稲瀬川沿い、腰越四丁目以南の神戸川沿いの地区が危険予想区域として想定されている。

- ・この津波災害に対しては、海岸線や河川沿いの緑が災害の防止に重要な役割を果たしている。

図1-24 土砂崩壊や津波、水害等の発生危険区域





(3)地震に伴う市街地火災等の災害

・鎌倉市では、丘陵地での大規模な宅地開発が始まった昭和30年代以降市街地が大きく拡大しており、今日では大船地域から玉縄地域、深沢地域、腰越地域にかけての市の西部一帯で、市街地がほぼ連担する状況が生まれている。

・また、JR鎌倉駅、大船駅周辺と江ノ電腰越駅周辺には木造を含む商業系建物（商業施設、店舗併用住宅等）の集積する市街地が形成されているほか、大船・深沢地域では工場が集積しており、全体として地震に伴う都市火災等の災害発生の危険要素が増大する傾向にある。

・こうした中、先に述べた都市の骨格を形成する緑地は、火災発生時の延焼を防ぐ防災緑地としての機能を備えており、特に、市街化区域内やその周囲にあって市街地を分節している樹林地や河川等は、こうした点で大きな役割を担っている。

(4)災害時の避難・復旧

・鎌倉市では、地域防災計画において別表に示す17カ所の広域避難場所を指定しているが、こうした状況からは次の点が指摘できる。

- ・広域避難場所に対応する身近な生活空間での避難や救護活動の場となる緑地
  - ・オープンスペースが市街地内に不足している。
- ・鎌倉霊園、鎌倉カントリークラブなど、市街地から遠く離れた場所に設定されている広域避難場所が見られる。
- ・広域避難場所までの距離が1km以上の市街地が大船・腰越・鎌倉地域の一部に見られる。
- ・広域避難場所に至るまでの避難路機能

図1-25 鎌倉市における市街地の広がり



表1-12 オープンスペースによる火災の延焼防止機能

	オープン スペース (%)	その他(%)
関東大震災	63	37
新潟大火	43	57
岩内町大火	75	25
能代大火	51	49
平均	58	42

都市緑地の計画 鹿島出版会

表1-13 広域避難場所一覧

1	鎌倉霊園
2	鶴岡八幡宮、横浜国大付属、鎌倉小・中学校
3	源氏山公園、葛原岡神社
4	御成中学校
5	七里ヶ浜ゴルフ場
6	県立鎌倉高校
7	東レ基礎研修所
8	JR大船工場、大船球場
9	深沢中学校
10	笛田公園
11	北鎌倉女子学園グラウンド
12	富士塚小学校
13	玉縄中学校、県立フラワーセンター、大船植物園
14	武田薬品工業グラウンド
15	清泉女学院
16	栄光学園
17	鎌倉カントリークラブ

鎌倉市地域防災計画



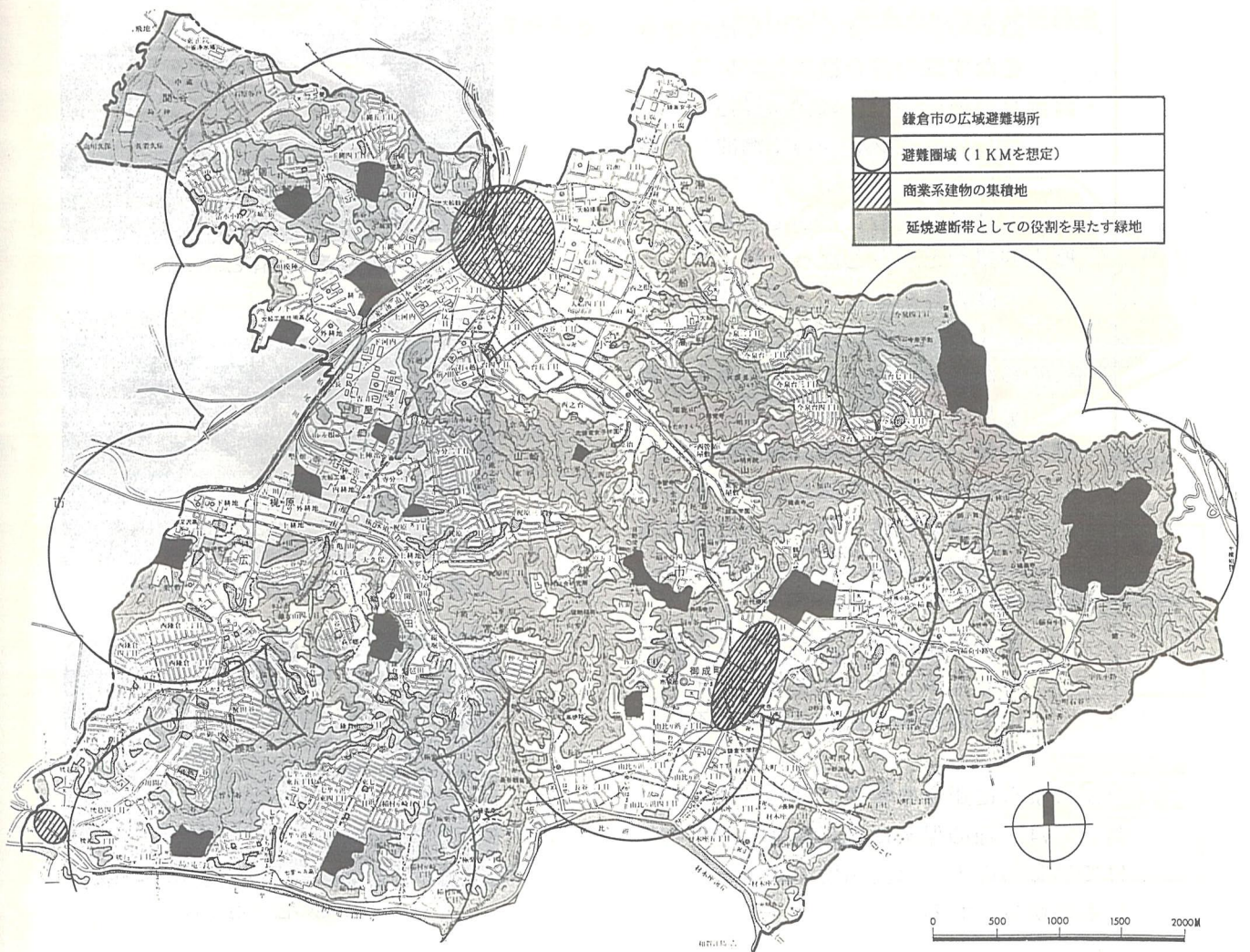
(歩道+緑)をもつ街路が少ない。  
 ・身近な緑地・オープンスペース（街区公園、学校、社寺境内地等）の相互のつながりが弱い。

表1-14 阪神大震災における身近な公園の使われ方  
 (神戸市 7年1月24、25日調査)

公園種別	震災関連利用のある公園数(カ所数)	公園の果たしている役割				計
		避難地	救援利用	復旧復興拠点	仮設住宅	
街区公園	136	90	75	3	0	168
近隣公園	24	17	33	6	2	58
地区公園	9	6	13	3	0	22
計	169	113	121	12	2	248

建設省資料

図1-26 市街地火災の延焼防止や災害時の避難・復旧に資する緑地・オープンスペースの分布





## 5) 景観解析

### (1) 鎌倉市の景観特性と緑の景観資源

- ・ 鎌倉市の都市景観の特性は次のように表される。

- ・ 「古都鎌倉」と「新しい鎌倉」の2つの顔をもつ。
- ・ 市街地の前面に開けた光あふれる海をもつ。
- ・ 三方を山で囲まれた山塊に抱かれたたたずまいをもつ。
- ・ 歴史的遺産が自然環境の中に融け込んでいる歴史的風土をもつ。

- ・ このような鎌倉市の都市景観を特色づけるものとして、次のような緑が重要な役割を果たしている。

#### ・ 丘陵の樹林地

市域の中心部にのびて、重層的で四季の変化に富んだ市街地の背景をなす緑の壁を構成している。

#### ・ 海浜及び海岸線沿いの斜面緑地

美しいカーブを描いて湾曲した特徴のある海岸線であり、富士山や江ノ島を望むことができる。

#### ・ 歴史的遺産と一体となった緑

丘陵の豊かな自然と歴史的遺産が融和した環境が維持されており、わが国を代表する歴史的風土景観が形成されている。

#### ・ 谷戸の緑（住宅地の緑、谷戸の自然）

住宅地の豊かな緑とその背景をなす丘陵の自然が融け合った質の高い住宅地景観が形成されている。

#### ・ 丘陵地の住宅地の緑

新しい鎌倉をイメージづける整然としたまち並みと豊かな緑をもつ住宅地景観が形成されている。

- ・ 上記のように鎌倉を特色づける景観資源に対しては、緑の保全に係る制度の適用を受けているものと、保全制度の適用を受けないものが見られる。



丘陵地の山林



海、海浜、海岸線沿いの斜面緑地



歴史的遺産と一体となった緑



谷戸の緑（住宅地の緑、谷戸の自然）



丘陵地の住宅地の緑



図1-27 鎌倉市の景観特性と緑の景観資源



(2) 市街地景観と緑の現状

鎌倉市の都市景観構造は右図のように表され、それぞれ次のような特徴と問題点をもっている。

● 地域

— 古都景観地域

- ・ 駅周辺は商業業務施設の建築群が連続するものの、背後には緑豊かな低層住宅地が広がり、親しみやすいまち並みが展開されている。

— 古都丘陵景観地域

- ・ 豊かな住宅の緑と背景をなす丘陵の自然的景観が融和した落ちつきのある住宅地景観が形成されている。
- ・ 一部に緑をもたない低層マンションの建設や敷地の細分化による緑の減少が見られる。

— 都市景観地域

- ・ 商業業務施設や工場、住宅地が混在した緑の少ないまち並みが形成されている。
- ・ 観音山、天神山等の既存樹林や柏尾川等の市街地景観を特色づける要素をもつ。

図1-28 鎌倉市の都市景観構造



市の全域	2つの景域	5つの景観地域	4つのベルト	3つの拠点
古都鎌倉大景域	古都景域	古都景観地域	海浜ベルト	鎌倉駅周辺拠点
		古都丘陵景観地域		
	都市景域	都市丘陵景観地域	北鎌倉ベルト	大船駅周辺拠点 深沢新都市拠点
		都市景観地域 玉縄丘陵景観地域		



都市丘陵景観地域

- ・ 計画的に開発された住宅地であり、整然とした緑豊かなまち並みが形成されている。
- ・ 一部に緑の少ない街区が見られる。

玉縄丘陵景観地域

- ・ 丘陵・樹林地の中に住宅地や文教施設が配置されている閑静で文教的な雰囲気を感じさせるまち並みを形成している。
- ・ 急速な市街化によって緑が減少し、景観的に混乱したまち並みをもつ場所も見られる。



都市景観地域



都市丘陵景観地域

●ベルト

海浜ベルト

- ・ 約7kmにおよぶ美しい海浜景観が連続する。
- ・ この一方で国道沿いの土地利用の変化により、海岸線の緑が減少し、風致が大きく変貌している。



海浜ベルト

若宮大路ベルト

- ・ 鎌倉のシンボリックな緑の景観軸を構成する。
- ・ 沿道では商業施設と多様な形態様式をもつ建築物が進んでいる。また、参道から周囲の山並みが見えにくくなってきている。



若宮大路ベルト

北鎌倉ベルト

- ・ 横須賀線沿いに鎌倉らしさを特色づける丘陵の山並みが車窓景観として展開する。
- ・ この一方で大船駅から北鎌倉までの間には住宅・工場・商業施設の混在するまち並みが形成されている。

柏尾川ベルト

- ・ 河川には大規模な商業施設や研究開発業務施設などが立地するが、全体として緑は少なく、柏尾川自体も景観軸としての機能は弱い。



柏尾川ベルト

●拠点

鎌倉駅周辺拠点

- ・ 鎌倉観光の中心地であり多くの人々が訪れるが、建物の中層化が進み、駅前広場にも玄関口にふさわしい緑は少ない。



大船駅周辺拠点

- ・鉄道、モノレール、道路や商業業務・サービス施設が高度に集積しており、玄関口にふさわしいまち並みの形成は遅れている。

深沢新都市拠点

- ・新たな21世紀の拠点を創造する場所であり、新しいまちづくりの視点に立った景観形成が求められる。



大船駅周辺拠点

6) 計画に向けての課題

以上の解析から得られる計画に向けての課題を整理すると、以下のように表される。

解析項目	課題
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市の骨格を形成する丘陵・海岸線の緑についての一体的保全とともに、市街地内での河川を軸とする骨格緑地の確保・強化が必要である。</li> <li>・現行の歴史的風土保存区域や史跡指定地以外の歴史と結びついた緑の保全が必要である。</li> <li>・貴重な自然資源に対する担保力の強化が必要である。</li> <li>・面となるビオトープ空間の確保とともに、線及び点的なビオトープ空間の保全・創造とそのネットワーク化が必要である。</li> <li>・数少ない谷戸の自然的環境の保全が必要である。</li> <li>・緑の現状や市街地特性にあわせた市街地緑化の推進が必要である。</li> </ul>
レクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢構成の変化やニーズの多様化にあわせたレクリエーション活動の場の整備・充実が必要である。</li> <li>・街区公園については、多様なニーズへの対応に向けた再整備が必要である。</li> <li>・鎌倉のもつ多様なレクリエーション資源の有効活用を図っていくことが必要である。</li> <li>・新しい鎌倉の魅力を高めるレクリエーション活動の場づくりが必要である。</li> <li>・歩行空間網の整備が必要である。</li> </ul>
防災	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害の防止につながる緑の保全及び防災対策が必要である。</li> <li>・津波被害の防止につながる海岸線の緑の保全・回復を図る必要がある。</li> <li>・様々な規模の地震災害に柔軟に対応できる構造をもった、延焼防止や避難につながる緑・オープンスペースの保全・整備とそのネットワークが必要である。</li> <li>・市街地の防災機能の強化につながる公園づくりが必要である。</li> </ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鎌倉の景観特性を構成する緑地の担保力を高めることが必要である。</li> <li>・景観構造や地域の特性に応じた、市街地景観の質を高め、都市の活性化につながる緑の創造が必要である。</li> <li>・市街地景観にメリハリを与える緑の保全・創造が必要である。</li> <li>・車窓景観を構成する緑の保全が必要である。</li> </ul>